

広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の令和2年度における目標達成状況等について

1 計画の概要

(1) 策定・改定年月

平成27年3月策定、令和3年3月改定

(2) 計画の概要

国の法律・計画や広島県の「広島県廃棄物処理計画」、本市の「広島市総合計画」、「広島市環境基本計画」等との整合を図り、長期的・総合的な視点のもと、「ゼロエミッションシティ広島の実現」を基本理念として、本市における一般廃棄物処理を計画的に推進するための方針を示している。

また、「食品ロスの削減の推進に関する法律」第13条に基づき、本計画の中に食品ロス削減推進計画を位置付け、市民・事業者・行政の協働による取組を一層推進することとしている。

(3) 基本理念・基本方針

【基本理念】：『ゼロエミッションシティ広島の実現』
 本計画に掲げる施策を市民・事業者・行政が一体となって更に推進し、資源が循環して天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される美しく魅力あふれる都市、ゼロエミッションシティ広島の実現に向けた挑戦を続けていきます。

- 【基本方針1】：市民・事業者・行政が一体となったごみの減量とリサイクルの推進
- 【基本方針2】：安定的なごみ処理体制の確保
- 【基本方針3】：分別区分・収集運搬体制の再構築
- 【基本方針4】：コストの削減
- 【基本方針5】：ごみのないきれいなまちづくりの推進

(4) 計画期間

平成27年度～令和6年度（前期：平成27年度～令和元年度、後期：令和2年度～令和6年度）



(5) 減量目標

区分	目標	基準年度	中間目標年度	最終目標年度
		平成25年	令和元年度	令和6年度
排出量	最終目標年度（令和6年度）までに ごみ総排出量を 337,000t/年（約1割削減）に 1人1日当たりのごみ排出量を 785g/人日（74g削減）に	37.2万t (859g/ 人日)	目標値	33.7万t (785g/人日)
			実績値	
焼却量	最終目標年度（令和6年度）までに 焼却量を285,000t/年に	30.4万t	目標値	28.5万t
			実績値	
埋立量	最終目標年度（令和6年度）までに 埋立量を40,000t/年（約3割削減）に	5.6万t	目標値	4.0万t
			実績値	
			実績値	6.1万t

(6) 進行管理

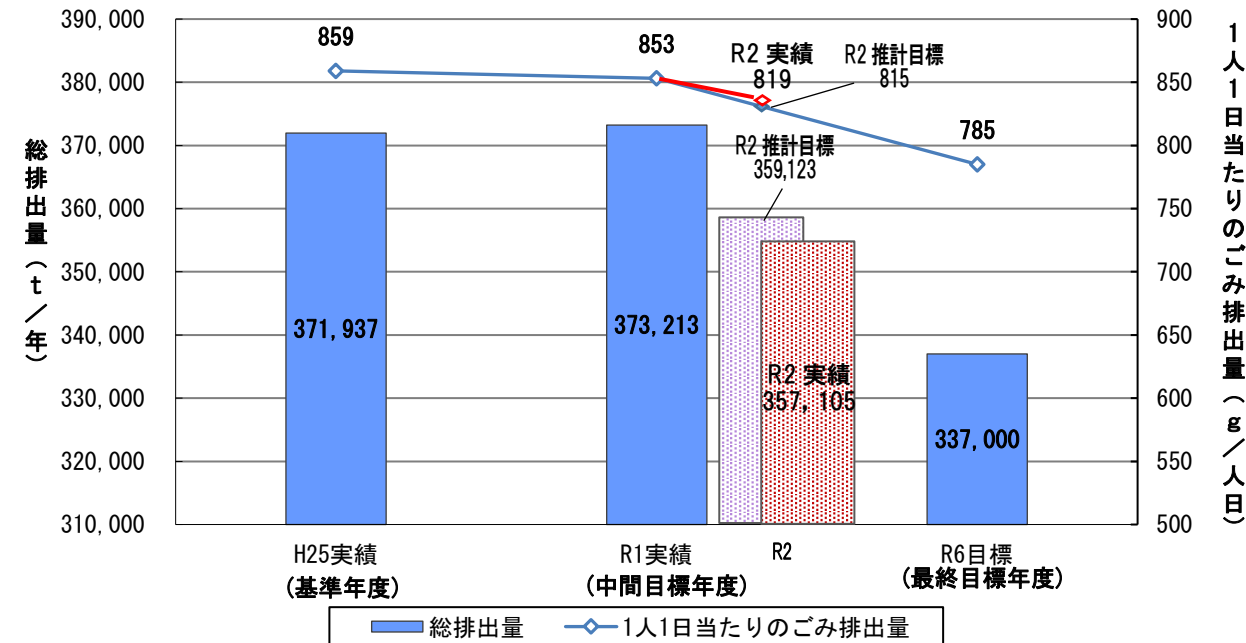
計画を着実に推進するため、施策の実施状況及び目標の達成状況を毎年度把握し、PDCAサイクル（計画（Plan）・実行（Do）・点検（Check）・見直し（Action））に基づき、計画の適切な進行管理を行うとともに、施策の実施状況や効果等を評価し、ごみ排出量等の推移や社会情勢の変化などを踏まえた上で、新たな施策の導入についても検討する。

2 減量目標の達成状況

項目	平成25年度実績 (基準年度)	令和2年度実績 (A)	令和2年度目標値 (B)	令和6年度目標値 (最終年度)	目標達成率 [1-(A-B)/B] ×100
1年当たりのごみ総排出量(t)	371,937	357,105	359,123	337,000	100.6%
家庭ごみ(t)	214,681	220,086	211,111	-	95.7%
事業ごみ(t)	155,424	135,882	146,581	-	107.3%
都市美化ごみ(t)	1,832	1,137	1,431	-	120.5%
1人1日当たりのごみ排出量(g/人日)	859	819	815	785	99.5%
1年当たりのごみ焼却量(t)	303,687	293,649	305,330	285,000	103.8%
1年当たりのごみ埋立量(t)	55,859	45,085	45,479	40,000	100.9%

※ 計画の目標値は、令和元年度（中間目標年度）及び令和6年度（最終目標年度）で設定しており、年度ごとに設定していないが、便宜的に各年度に割り振って令和2年度目標値を推計した。

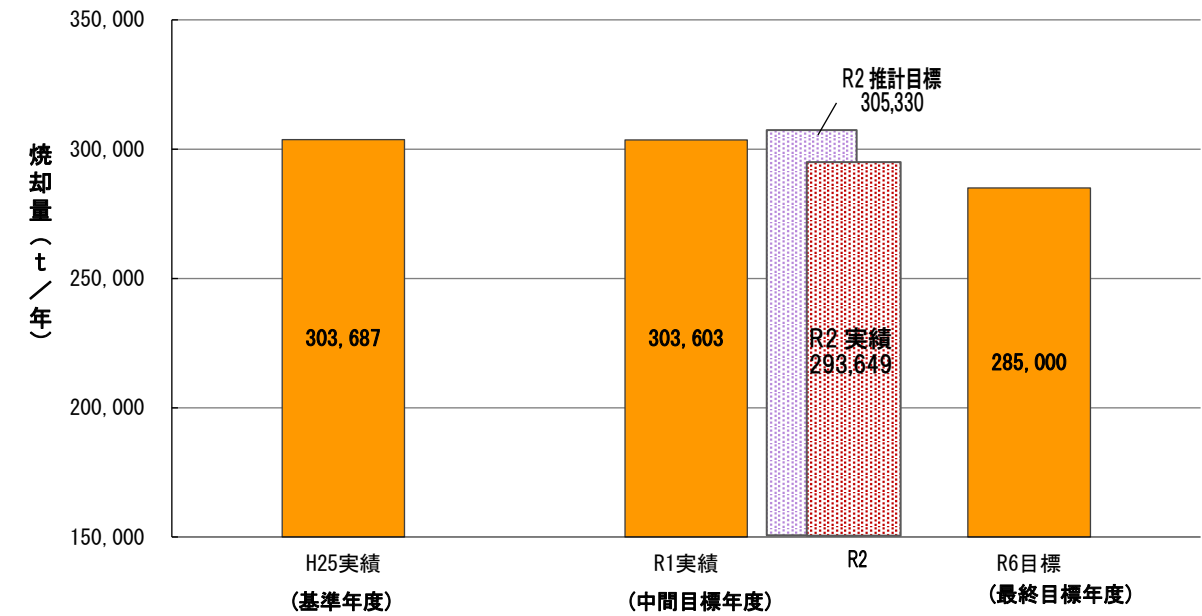
○ 排出量



【達成状況】

- 令和2年度のごみ排出量は357,105 tと、令和2年度目標値の推計値359,123 tより2,018 t少なく、目標達成率は100.6%
- 令和2年度の1人1日当たりのごみ排出量は819 gと、令和2年度目標値の推計値815 gより4 g多く、目標達成率は99.5%

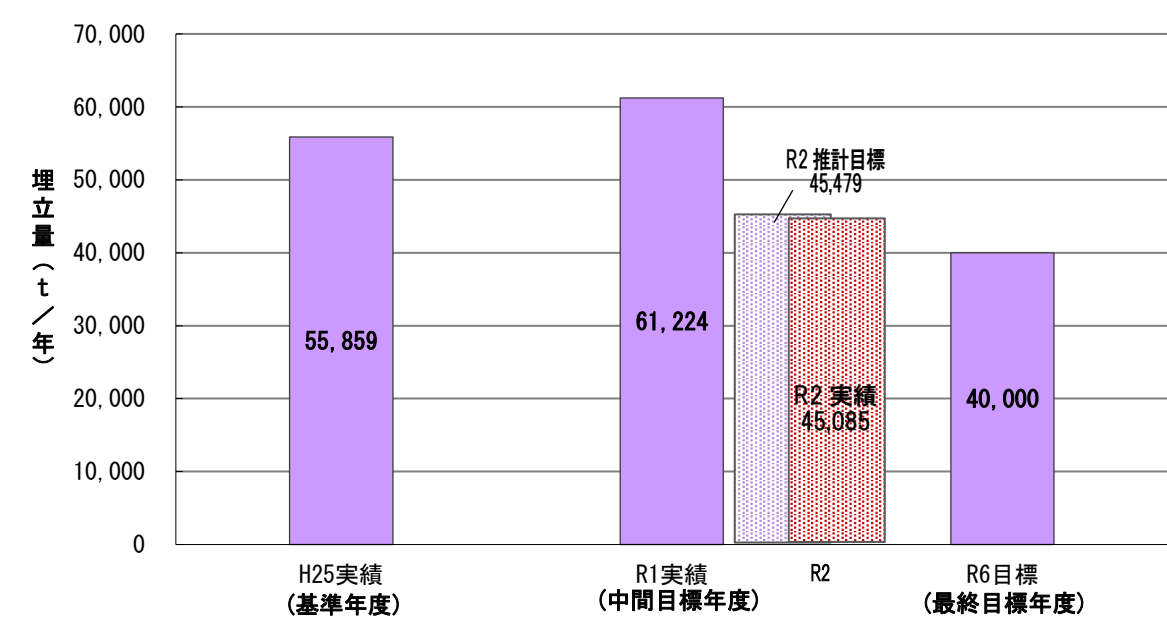
○ 焼却量



【達成状況】

- 令和2年度の焼却量は293,649 tと、令和2年度目標値の推計値305,330 tより11,681 t少なく、目標達成率は103.8%

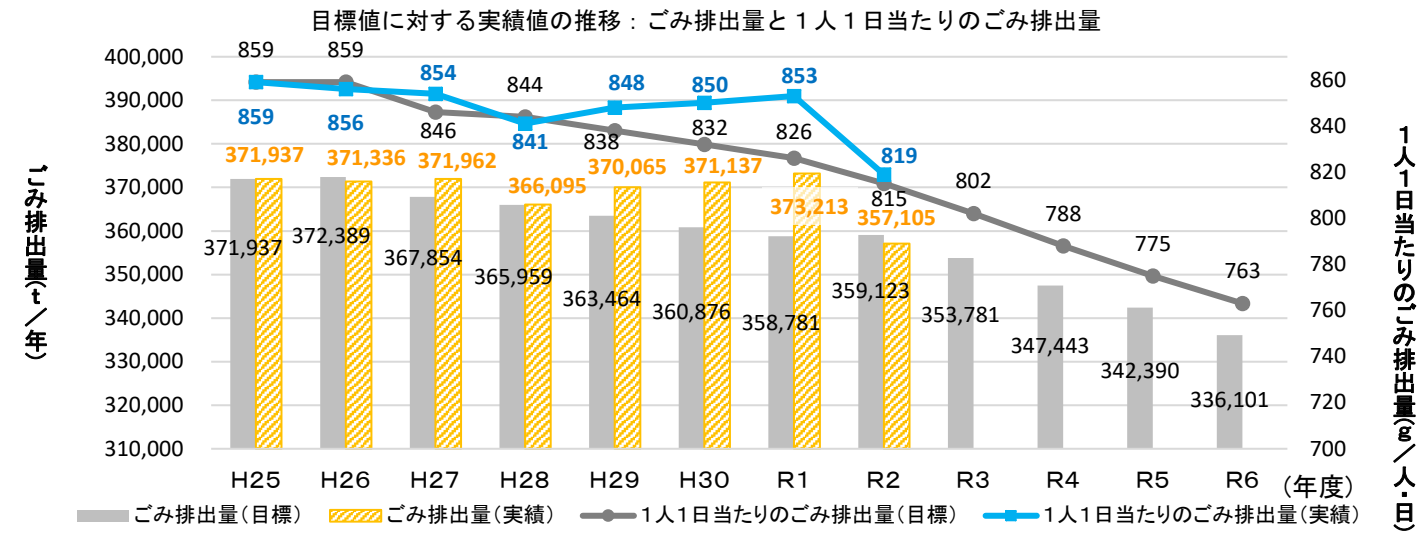
○ 埋立量



【達成状況】

- 令和2年度の埋立量は45,085 tと、令和2年度目標値の推計値45,479 tより394 t少なく、目標達成率は100.9%

3 排出量の状況



○ 増減等の主な状況

① 総排出量

- 平成29年度以降増加傾向だったが、令和2年度は大幅に減少した。

② 家庭ごみ排出量

- 基準年度の平成25年度から平成28年度までは年々減少してきたが、平成29年度に増加に転じ、平成30年度は微減となったものの、令和元年度以降は増加している。

<減少>

- 可燃ごみは、減少傾向にあり、令和2年度は138,411tと、基準年度である平成25年度の146,775tと比べると8,363t少なく、5.7%減となった。
基準年度の平成25年度と比べて排出量が減少している家庭ごみは可燃ごみのみである。

<増加>

- 大型ごみは、平成28年度を除き年々増加しており、令和2年度は12,388tと、基準年度である平成25年度の7,623tと比べると、4,765t多く、62.5%増となった。
- 資源ごみは、平成26年度を除き年々増加しており、令和2年度は35,725tと、基準年度である平成25年度の28,573tと比べると、7,152t多く、25.0%増となった。
- ペットボトルは、平成26年度を除き年々増加しており、令和2年度は2,675tと、基準年度である平成25年度の2,153tと比べると、522t多く、24.2%増となった。

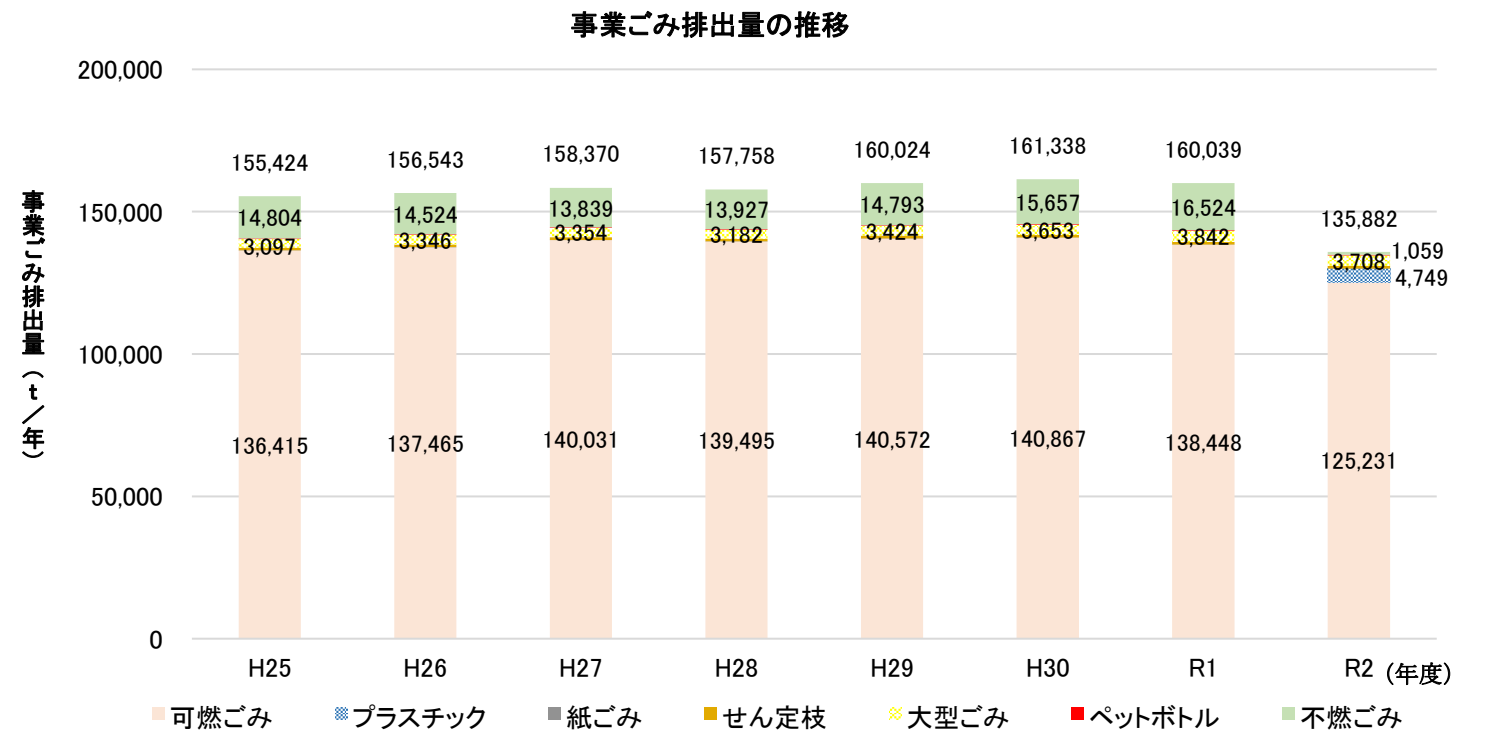
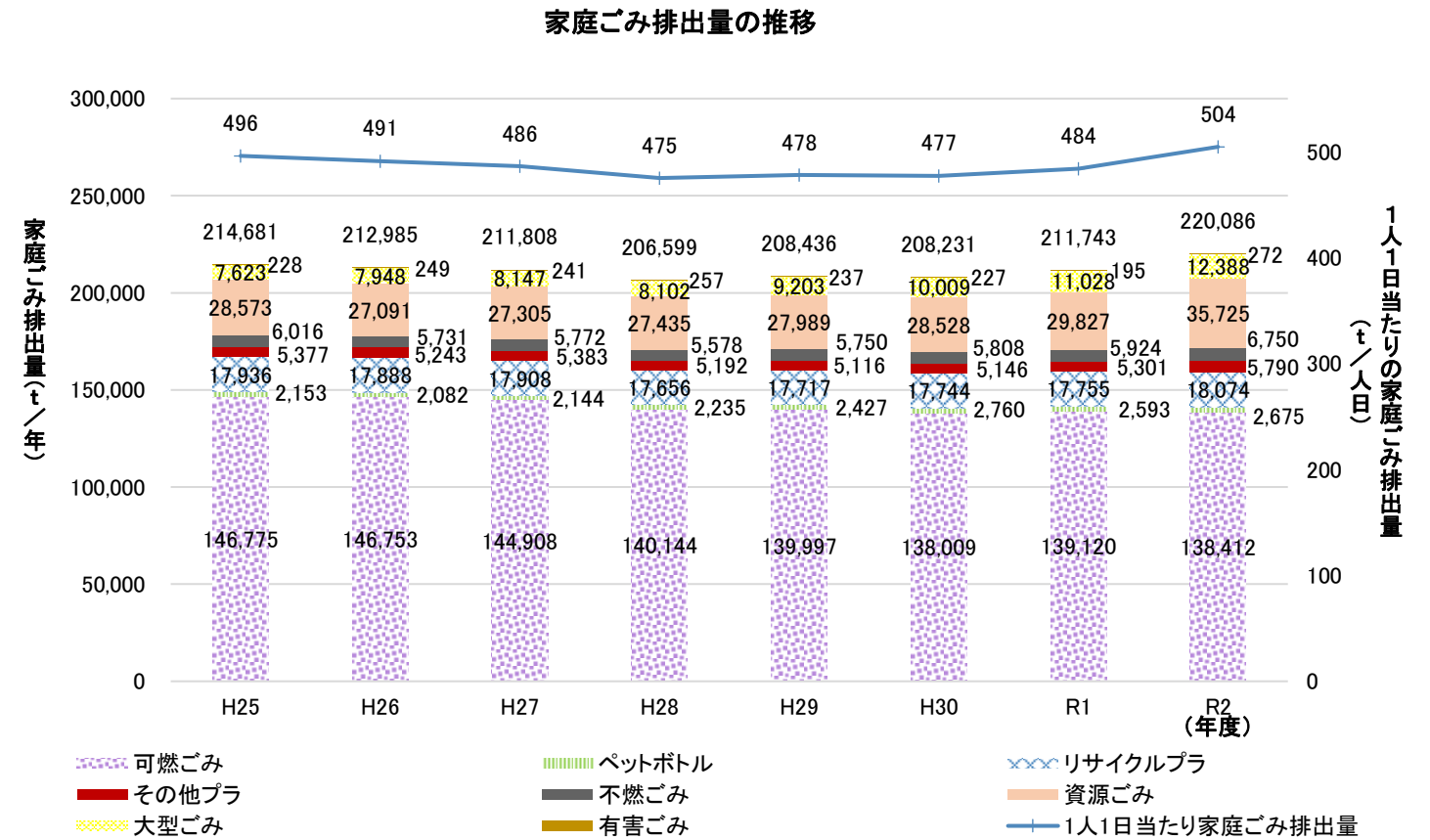
③ 事業ごみ排出量

- 基準年度の平成25年度以降、平成28年度を除き平成30年度まで増加傾向であったが、令和元年度からは減少が続いている。

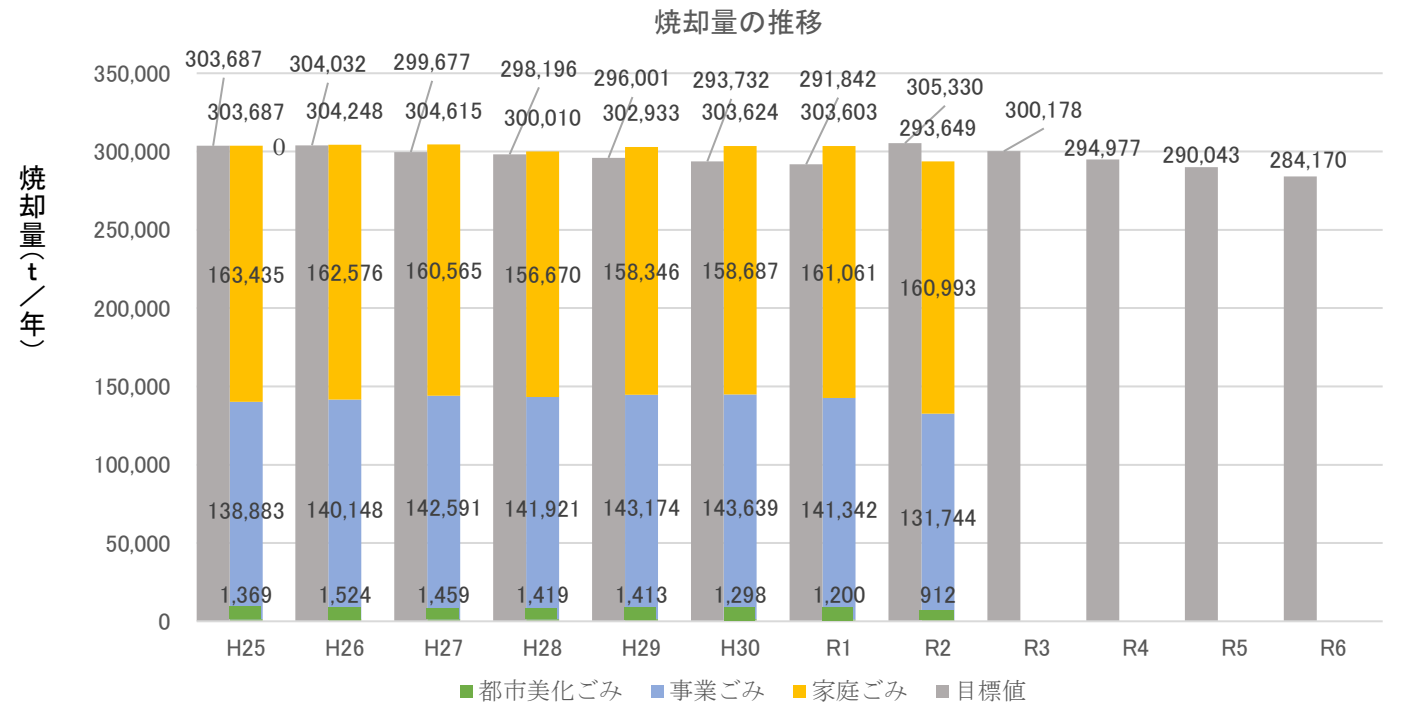
○ 増減等の要因

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響
→ 家庭ごみについては、自宅の整理整頓を行う人やネットショッピングを利用する人、在宅勤務の人が増えるなど、新しい生活様式や働き方の変化に伴う排出量増加が考えられる。
また、事業ごみは事業活動縮小に伴う排出量減少が考えられる。
- 市最終処分場における廃プラスチック類の受入中止
→ 令和2年度から廃プラスチック類の市最終処分場での受入れを中止したことから、事業ごみのうち不燃ごみの排出量が減少した。

○ ごみ種類別排出量の推移



4 焼却量の状況



(t)

区分	H25実績 (基準年度)	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	R2実績	増減
家庭ごみ	163,435	162,576	160,565	156,670	158,346	158,687	161,061	160,993	↓
事業ごみ	138,883	140,148	142,591	141,921	143,174	143,639	141,342	131,744	↓
都市美化ごみ	1,369	1,524	1,459	1,419	1,413	1,298	1,200	912	↓
計	303,687	304,248	304,615	300,010	302,933	303,624	303,603	293,649	↓

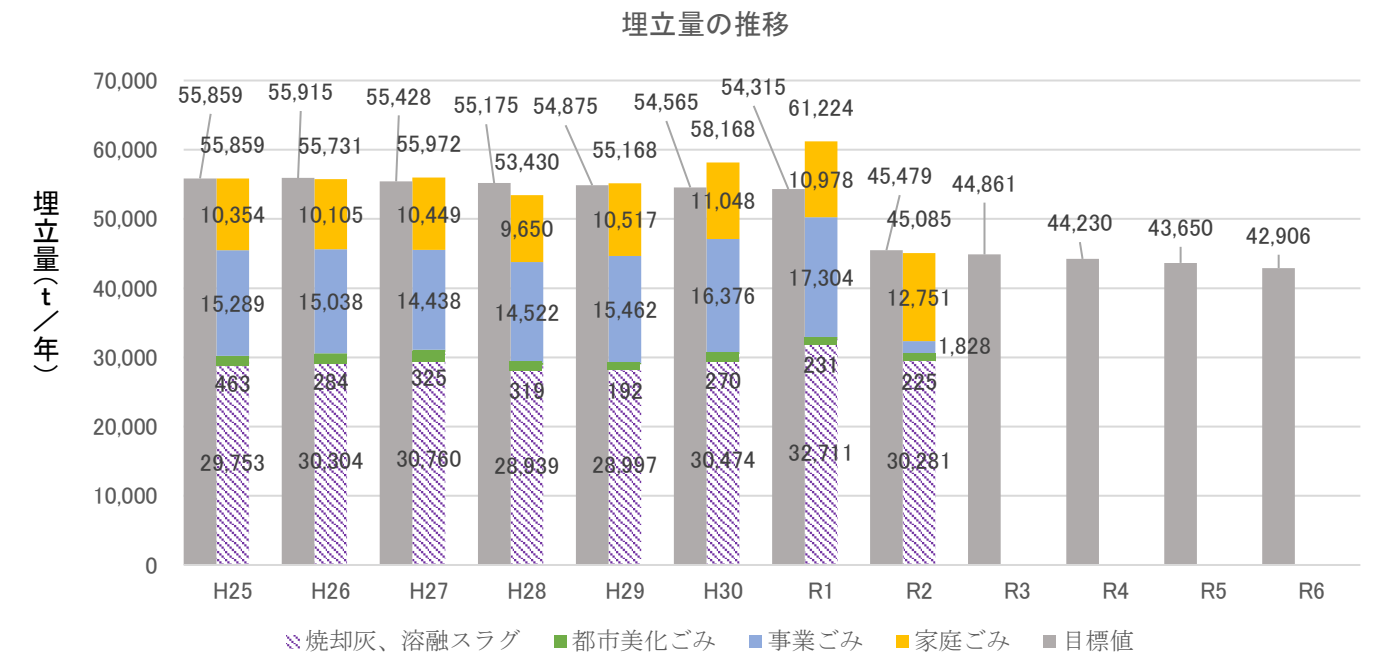
○ 増減等の主な状況

- 令和2年度の焼却量は293,649tと、基準年度である平成25年度の303,687tと比べて10,038t減少した。
- 令和2年度の家庭ごみ焼却量は160,993tと、基準年度である平成25年度の163,435tと比べて2,442t減少した。
- 令和2年度の事業ごみ焼却量は131,744tと、基準年度である平成25年度の138,883tと比べて7,139t減少した。

○ 増減の主な要因

- 家庭ごみ：ごみ減量・リサイクルの推進に向けた各施策の成果により家庭系可燃ごみの排出量が減少したことが要因と考えられる。
- 事業ごみ：新型コロナウイルス感染症拡大により事業系可燃ごみの排出量が減少したことが要因と考えられる。

5 埋立量の状況



(t)

区分	H25実績 (基準年度)	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	R2実績	増減
家庭ごみ	10,354	10,105	10,449	9,650	10,517	11,048	10,978	12,751	↑
事業ごみ	15,289	15,038	14,438	14,522	15,462	16,376	17,304	1,828	↓
都市美化ごみ	463	284	325	319	192	270	231	225	↓
焼却灰等	29,753	30,304	30,760	28,939	28,997	30,474	32,711	30,281	↑
計	55,859	55,731	55,972	53,430	55,168	58,168	61,224	45,085	↓

○ 増減等の主な状況

- 令和2年度の埋立量は45,085tと、基準年度である平成25年度の55,859tと比べて10,774t減少した。
- 令和2年度の家庭ごみ埋立量は12,751tと、基準年度である平成25年度の10,354tと比べて2,397t増加した。
- 令和2年度の事業ごみ埋立量は1,828tと、基準年度である平成25年度の15,289tと比べて13,461t減少した。

○ 増減の主な要因

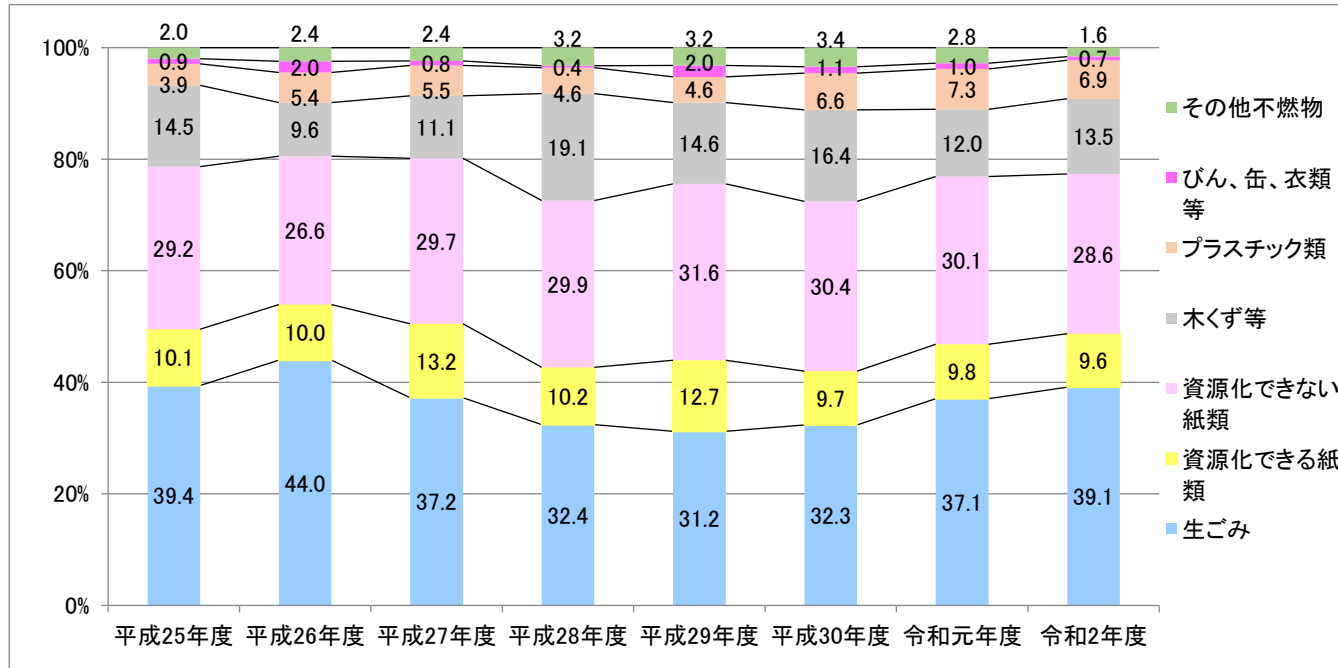
- 家庭ごみ：家庭系大型ごみの排出量が増加したことが要因と考えられる。
- 事業ごみ：令和2年度から廃プラスチック類の市最終処分場での受入れを中止したことが要因と考えられる。

(参考) 組成分析調査結果

○ 家庭系可燃ごみの組成分析結果の推移

年度によって増減はあるものの、各年度ともに紙類が全体の約4割を占めており、紙類のうちの約2～3割は資源化できる紙類であることについても大きな変化は見られなかった。

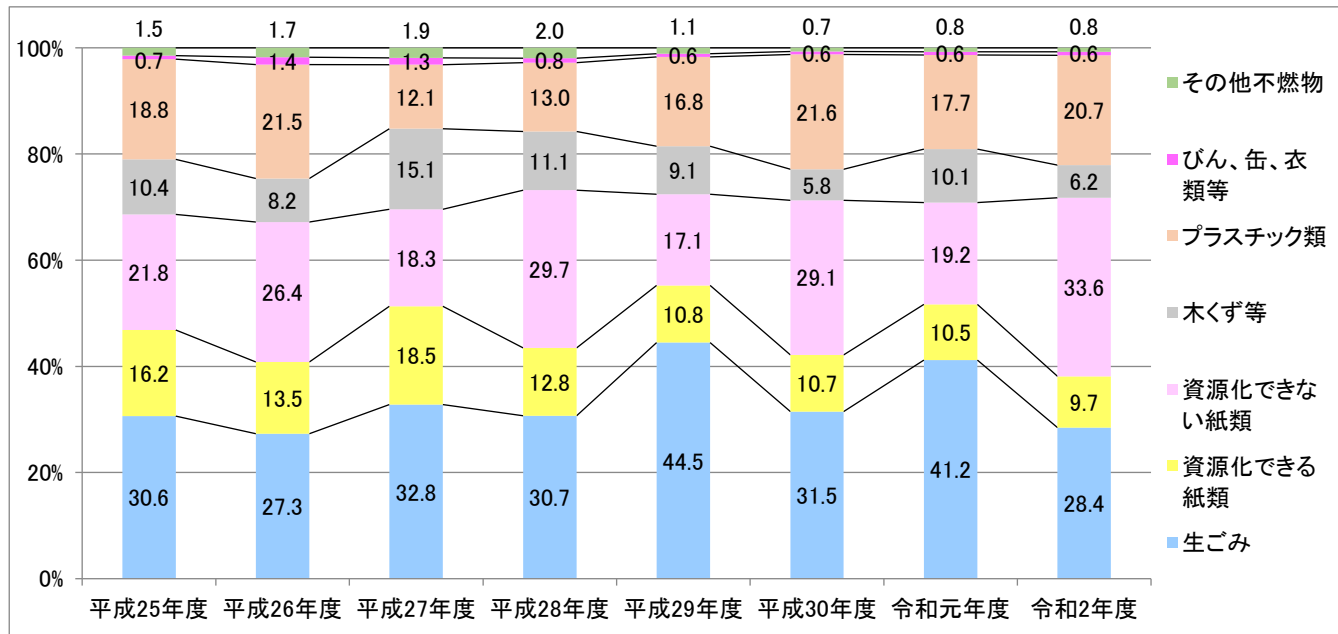
また、生ごみについては、平成25年度は全体の約4割を占めていたが平成27年度から平成29年度にかけて減少が続いた。しかしながら、平成30年度から増加に転じ、令和2年度は全体の約4割と、平成25年度とほぼ同じ割合となっている。



○ 事業系可燃ごみの組成分析結果の推移

家庭系可燃ごみと同様、各年度ともに紙類が全体の約3～4割を占めているが、そのうち紙類に資源化できる紙類が約2～5割含まれており、家庭系可燃ごみよりも資源化できる紙類の割合が高い。

また、生ごみが概ね3～4割を占めており、期間の中で増減の傾向はうかがえない。

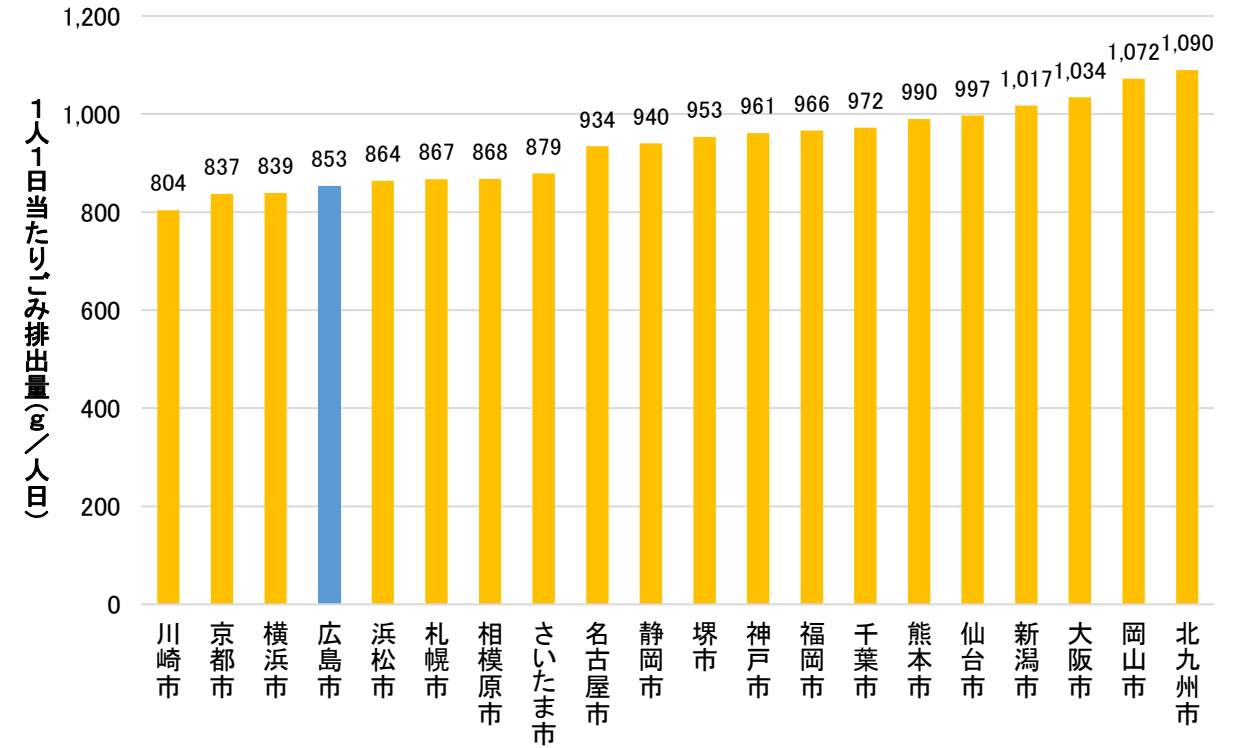


(参考) 他都市の状況

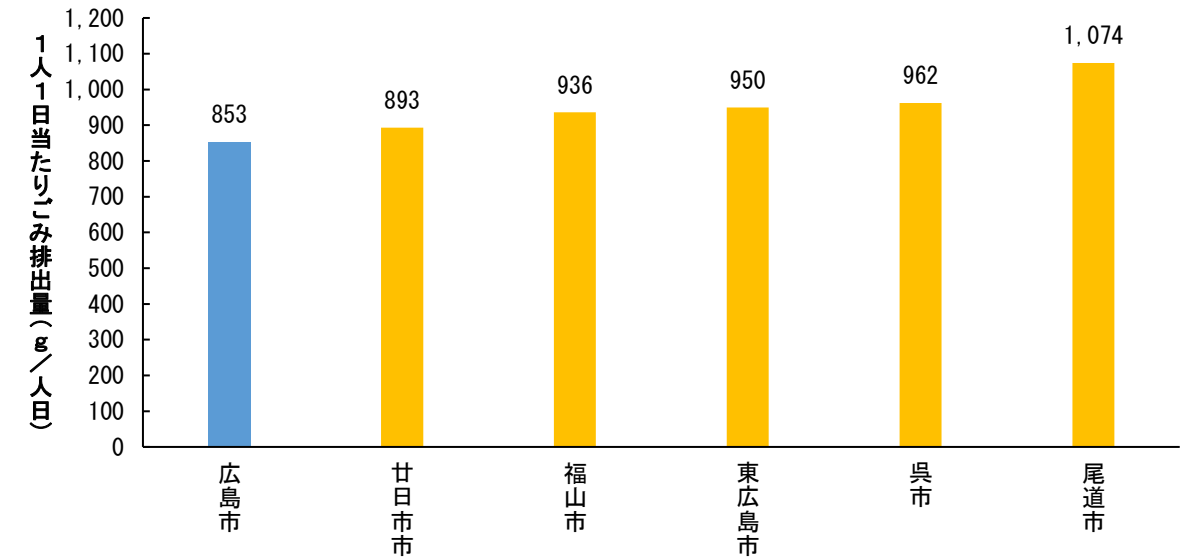
本市の1人1日当たりのごみ排出量は、平成17年度から平成28年度まで政令指定都市の中で最少となり、平成29年度以降も低い水準を維持している。

また、県内の人口10万人以上の都市の中には、平成22年度以降最少である。

- 政令指定都市における1人1日当たりのごみ排出量（令和元年度実績）



- 県内の都市（人口10万人以上）における1人1日当たりのごみ排出量（令和元年度実績）



(資料：環境省 令和元年度一般廃棄物処理実態調査結果)